



これからの建築

～スケッチしながら考えた～

2016年9月17日発売 光嶋裕介(著)

装丁:尾原史和(SOUP DESIGN)

四六判並製/248ページ/定価:1,800円+税/ISBN:978-4-903908-82-3

ひとりの建築家としての、マニフェスト

街並みについて、高層建築について、競技場について…etc.

内田樹氏の武道道場兼自宅の「凱風館」や、ミュージシャン ASIAN KUNG-FU GENERATION のライブ舞台装置などを手掛ける気鋭の若手建築家である著者が、建築と身体の対話から未来を考えた一冊。

後藤正文氏、いとうせいこう氏、
ほか続々推薦!!

建築の希望を見つけるべく、さまざまなテーマで「これからの建築」について考えた文章をここに書いていく。そうして描かれたスケッチによって思考が鍛えられ、そうした断片が集集すると、ひとりの建築家としてのマニフェストになるのではないかという想いを胸に、筆を進めてみたい。――プロローグより

オール描き下ろしスケッチ 16 枚収録! →

光嶋裕介(こうしま・ゆうすけ)

建築家。1979年、米ニュージャージー州生まれ。1995年、早稲田大学本庄高等学院に入学。2002年、早稲田大学理工学部建築学科を卒業し、同大学院へ。石山修武研究室に所属。2004年、大学院卒業とともにヨーロッパへ。ドイツの建築設計事務所働き、ベルリン生活を満喫。2008年に帰国し、事務所を開設。若手建築家の登竜門である、SDレビュー2011に入選。2010年より森沢デザイン研究所にて非常勤講師。2012年からは、首都大学東京・都市環境学部にて助教として勤務。著書に『みんなの家。建築家一年生の初仕事』(アルテスパブリッシング)、『幻想都市風景』(羽鳥書店)、『建築武者修行一放課後のベルリン』(イースト・プレス)など。



<<目次>>

プロローグ	建築家として働くこと
第一話	大工の言葉
第二話	街の見た目
第三話	蔵としての家
エッセイ1	音楽のある部屋
第四話	移動する人たち
第五話	芸術の文脈と身近さ
エッセイ2	風景と対話するスケッチ
第六話	地域に開く学校
第七話	人々が行き交う場所
エッセイ3	ふたりのアトリエと本のある空間
第八話	高層建築の新しい挑戦
第九話	世界を結界する橋
エッセイ4	軸線の先にある象徴的な建築
第十話	広い芝生とスポーツの巨大建築
第十一話	総合芸術としてのライブ空間
エピローグ	生命力のある建築

9月刊	『これからの建築 スケッチしながら考えた』	ご予約数	冊
	光嶋裕介(著) 定価¥1,800+税 ISBN:978-4-903908-82-3		

* 仕掛け用パネルご用意します! → A4 ・ A3 * グラお送りできます! → 要 ・ 不要

●ミシマ社の本の仕入れ方法について(基本パターン)
直接取引(返品可) *詳細は別途、「取引覚書」をご用意しています。

- ①掛率 : 70%
- ②納品 : 宅配便で直送します(送料はミシマ社負担)。
- ③返品 : 随時入帳可能(送料は書店様負担)。
- ④精算 : 新刊などは3カ月後、補充などは当月請求。
返品は受領月の請求金額から控除、控除しきれなかった場合は、
次回の請求より相殺を原則とする。
- ⑤支払 : 月末締めでご請求、翌月末までのお支払い。手数料ミシマ社負担。

●取次ルート(返品不可)
注文のみ出荷、返品はできません。八木書店様経由で各取次へ搬入します。



貴店名:

ご担当者:

様

通信欄: